

第19回 ゆきかう那賀川推進会議

意見交換

物語化について

「ゆきかう那賀川推進会議」で行う取組を進める上で、歴史・文化、環境などを踏まえ「物語化」をしていくことが重要との意見があり、それを考慮して「今後目指すべき取組を進めていくこと」にしているが、「物語化」とはどのようなことか、不透明なものとなっている。

那賀川は、合併前にあった8市町村（阿南市、那賀川町、羽ノ浦町、鷺敷町、相生町、上那賀町、木沢村、木頭村）を主体に、吉野川の四国三郎に対峙して、八の字の縁起により、愛称を「阿波の八郎」としている。

過去には、8市町村は上流丹生谷地区（旧5町村）の木材を筏にし、それに農産物等を積み込み那賀川で運搬、下流の那賀川町・羽ノ浦町は木材を、富岡地区は農産物等を受取り、それを商売とすることで上下流が共存して発展するという繋がりを持っていた。

しかし、現在では道路物流で那賀川を舟運としての利用はないが、辰巳工業団地、農地などへの安定した水供給、上水に関しても那賀川の伏流水が地下水還元されるなど那賀川に依存している。

また、豊富な水資源を利用した水力発電により、電力の安定供給にも貢献しているが、これも森林整備、管理を上流で適切に行うことにより成り立っている。

さらに、洪水になれば上流のダム群により被害の軽減を行うなど、那賀川下流域は上流域の恩恵を受けるとともに共存して発展してきた歴史がある。

そこで、旧8市町村それぞれが那賀川とどういう関係があったか、上流の恩恵を受けて発展したことを調べることで、那賀川を軸とした上下流の繋がりが紐解かれ、後生に物語化として残すべきことがわかると考えるため、それぞれの歴史的關係を調べたいと思うが、皆様の意見を伺いたい。

【作業】旧8市町村と那賀川の歴史関係を

- 「各市町村史」より調べる。
- 市・町史編纂室や郷土史家などそれぞれの地域の歴史に詳しい人に聞く。
- 那賀川に関する文献を調べる（図書館）。

【中間報告】

- 次回のゆきかう那賀川推進会議（9月頃ファガスの森開催予定）で整理したものを発表

【まとめ】

- 今年度3回目の会議で最終まとめ。